

第3章

サンメイド の物語



50 今日のサンメイド

52 農協組織

54 サンメイドガール

56 パナマ太平洋万国博覧会

58 ブランドの構築

60 サンメイドの広告

62 ノーマン・ロックウェルとサンメイド

64 ポップカルチャーにおけるレーズン

66 100周年記念のレシピ集

68 サンメイドガールのアニメーション化

70 サンメイドの思い出

今日のサンメイド

1912年の設立当初からサンメイドはアメリカと世界の食卓に優れた製品を提供してきました。第一次大戦中はヨーロッパへの輸出、そして第二次大戦中は世界への輸出が中断されたこともあります。しかし、現在では世界的な貿易ネットワークを通して、サンメイドの製品は50ヶ国以上の消費者に届けられています。

サンメイド本社

1964年に開設されたキングスバーク工場は、『Factory Magazine』により全米トップクラスの新工場に選ばれました。約6万平方メートルの最先端設備を誇る工場は、フレズノから南に30キロほど離れた40ヘクタールの敷地内にあります。設備は世界中のお客様の要望に応えるため、常に改善が加えられています。



世界的な成功

サンメイドは世界で最も知られているブランドのひとつです。サンメイドは多くの国内・海外食品加工業者から選ばれる主要サプライヤーとなっています。

製品ライン

サンメイドは、レーズンやドライフルーツのほか、チョコレートやヨーグルトでコーティングしたフルーツ菓子、レーズンパン、焼き菓子などに使われるあらゆる種類のドライフルーツ製品を提供しています。また、食品メーカー向けの材料として製品のバルク販売も行っています。



家族を重視した戦略

サンメイドは、あらゆる年齢層のお客様にアピールする製品を提供しており、家族向けの消費者販促活動では映画会社やアニメーション制作スタジオと提携してきました。



ビジターを大切に

サンメイドの工場では、いつでもビジターを歓迎しています。本社工場は、カリフォルニア州キングスバークの高速道路99号線を降りてすぐのところにあります。世界最大のレーズンの箱の見学のほか、サンメイド・ストアでおみやげ用のレーズンやドライフルーツを購入することができます。



広告

創業以来のユニークな広告を通じて、サンメイドは世界で最も知られ信頼されるブランドのひとつに成長しました。テレビや印刷物、ウェブサイト、ソーシャルネットワーク、販促製品、レシピ本などにより、サンメイドの製品は世界中の消費者に親しまれています。

農協組織

ヨーロッパの産業革命以降、社会とビジネスが急速に変化する中、1844年に英国でRochdale Equitable Pioneers Societyが設立され、近代的な協同組合の動きが活発化するようになりました。

農協組織の原則に基づき、サンメイドのメンバーは連携してマーケティング活動を行い、大量生産による加工・製造コストの削減に成功しました。さらに教育と技術的なサポートによる栽培農家の支援も行われ、しだいに民主的プロセスによる自己統治が始まります。

Sunkist Growers、Blue Diamond Growers、Sunsweet Growers、Ocean Spray Cranberries、Land O'Lakesなど多くの有名ブランドが農協組織として機能していました。このほか、ユーティリティ協同組合、供給協同組合、クレジットユニオン、国際的なホテルチェーンのBest Western、消費者協同組合Recreational Equipment Incorporated (REI) などの組織もありました。

レーズン業界で採用された農協組織の利点には、信頼性、畑からエンドユーザーにいたるまでの製品管理、お客様の満足が生産者にとって財政上重要な要素になること、家族経営の農業に「顔」ができることなどがあります。



知性の会合

1912年、カリフォルニアのレーズン栽培農家のグループがCalifornia Associated Raisin Companyを設立し、これがその後、Sun-Maid Growers of Californiaになりました。この新しい団体は、低価格と需要の変動による影響を低減し、加工処理・販売・安定した市場の確保を通じて、より良い経済基盤を作ることを目的として設立されました。



レーズン王

当初、栽培農家を組織しようという動きが何度ありましたが、レーズン業界があまりにも急速に成長していたため失敗に終わりました。そこで、開発業者のマーティン・セオドア・カーニーが、マーケティングと

流通を改善するために、栽培農家による共同出資を提案しました。このアイデアとリーダーシップにより、カーニーは、1895年に設立、1899年に法人化されていたCalifornia Raisin Growers' Associationの会長に選ばれました。最初はうまくいっていたものの、困難な時期が何年か続いた後、この団体は1905年に解散を余儀なくされました。



アーモリーホール

1912年11月、フレズノのアーモリーホールはCalifornia Associated Raisin Company (後のSun-Maid Growers of California) の集会場となりました。アーモリーホール(前景)とバートンオペラハウスは(右奥)は、ブドウ園経営者のロバート・バートンによって1889年に建てられました。



サンメイド・シティ

1918年頃、繁栄するレーズン業界には新しい「本拠地」が必要になりました。サンメイドはフレズノ市街の近くに最先端の工場を新設しました。サンメイド・シティとも呼ばれるこの工場は開設後、「デトロイト以西で最高の工場」と呼ばれました。



アメリカ国内でのマーケティング

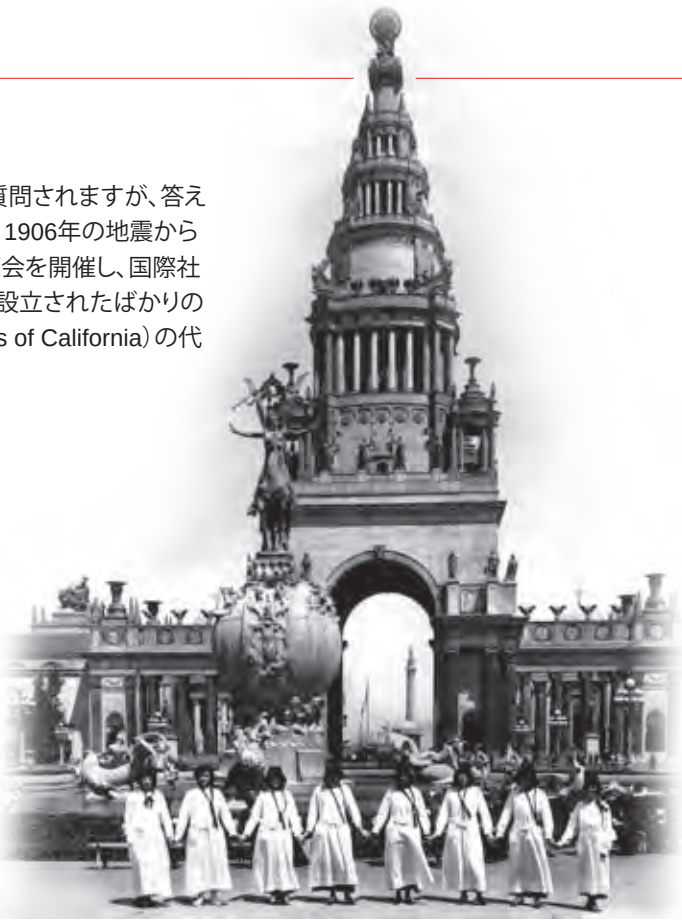
1915年、農協組織は食料品店へのレーズンの直接販売を目指し、国内営業チームを雇いました。この活動と新しいサンメイドのブランド、印刷広告、レシピ本の紹介が奏功して、アメリカ国内におけるレーズン消費量は大幅に増加しました。

サンメイドガール

多くの人がオリジナルの「サンメイドガール」は実在の人物かと質問されますが、答えは「はい」。彼女の名前はロレーン・コレット(ピーターセン)です。1906年の地震から間もない1915年5月、サンフランシスコはパナマ太平洋万国博覧会を開催し、国際社会にその復興と再生をアピールしました。ロレーン・コレットは、設立されたばかりのCalifornia Associated Raisin Company(後のSun-Maid Growers of California)の代表者として、他の女性たちとともにこのイベントに出席しました。

パナマ太平洋万国博覧会

サンメイドガールは、青い縁取りの入った白いブラウスを着て、日よけ帽をかぶり、パナマ太平洋万国博覧会の来客にレーズンのサンプルを配りました。日よけ帽は、元々青色でした。



ロレーン・コレット

ロレーンは後日、「日よけ帽の色が青から赤に変わったのは、赤の方が太陽の色をよりよく反射するからです。フレズノに戻って間もないある日、私は母の赤い日よけ帽をかぶって裏庭に立っていました。そこにサンメイドの役員リロイ・ペインが通りかかったのです」と語っています。



最初の絵

サンフランシスコの万博に参加している間、ロレーンは画家ファニー・スキャフォードのポスト・ストリート・スタジオで午前中に絵のモデルを務め、午後から万博で働きました。その頃までにサンメイドガールは全員、赤い日よけ帽をかぶるようになっていました。スキャフォードはさまざまな立ち位置や小道具を試しましたが、最終的にはブドウであふれそうなトレイを抱え、背景に太陽が輝いているという象徴的な構図に落ち着きました。



トップストーリー

ロレーン(右端)のこの写真は1915年、「San Francisco Bulletin」に掲載され、万博でのサンメイドの活動を宣伝しました。



国宝

サンメイドの75周年を記念して1988年1月26日、貴重なオリジナルの日よけ帽は(その頃までにはピンクに色あせていましたが)首都ワシントンのスミソニアン博物館に寄贈されました。当時のディック・リン米国農務省長官もこの席に立ち会いました。

赤い日よけ帽

1915年当時の生活は今よりもシンプルで農業の影響が強かったため、カリフォルニアの女性の多くがまだ日よけ帽をかぶっていました。ロレーンは1915年頃からオリジナルの赤い日よけ帽をたんに大切に保管していましたが、1974年に開かれたある式典を記念して、この日よけ帽をサンメイドに寄贈することになりました。



オリジナルのサンメイド

万博の後、ロレーンはさらにモデルを続け、1916年にはセシル・B・デミル監督の映画「Trail of the Lonesome Pine」にも登場しました。結婚後はロレーン・コレット・ピーターセンと名前を変え、看護師として働きました。90歳で亡くなるまで初代サンメイドガールとしてさまざまな場に登場しました。



パナマ太平洋万国博覧会

1915年にサンフランシスコでパナマ太平洋万国博覧会が開かれました。これはパナマ運河の完成と、1906年の壊滅的な地震・火災のダメージを受けた、サンフランシスコの復興を祝うためのものでした。1915年2月～12月にかけて開催された万博では、展示物だけではなく、壮大な建物や彫像、壁画、噴水、湖、庭園が見所でした。この中には、パナマ運河の実用模型やギリシャのパンテオンのレプリカも含まれていました。最高の芸術、さらに当時の輸送、機械、農業分野から画期的な展示物がお披露目され、サンメイドも独自の展示を行いました。9ヶ月間続いた万博に出展したことで、サンメイドは世界的に知られるブランドになりました。

カリフォルニア館

サンメイド(当時の名称はCalifornia Associated Raisin Company)は万博の園芸館内にあるカリフォルニア館で展示を行いました。万博では米国の州や郡、企業のほか世界各国からの展示やパフォーマンス、パレードも行われました。



お披露目された市

現在マリーナと呼ばれているサンフランシスコ北部の70以上の街区を整備・干潟して、約255ヘクタールの博覧会場を建設するには3年の歳月を要しました。建物は博覧会の開催期間中だけ維持できるように木材で建てられ、漆喰と黄麻布を使ったモールディングや彫刻で覆われました。



レーズン種抜き機

園芸館に展示されたサンメイドのレーズン種抜き機はあまりにも人気が高かったため、食品館にも2台目が展示されました。実演の一部として種のあるマスカットのレーズンが機械の中に置かれ、その後すぐに種を取り除かれたレーズンが出てきて万博の観客を沸かせました。



初代サンメイドガール

サンメイドのロゴのモデルとして有名なロレーン・コレットは、万博開催当時はまだロゴのモデルをしていませんでした。万博の期間中、コレット(右から2人目)は他の若い女性たちとともにレーズン大使を務め、レーズンのサンプルを来場者に配りました。



ニュース

「The Fresno Morning Republican」紙は万博のイベントについて報じ、1915年3月の「フレスノ郡の日」を含む特別行事に参加するよう地元住民に呼びかけました。また、フレスノ郡からの観客は万博でパレードに参加したり、レーズンやレーズンパンを進呈したりしました。万博の観客に対し、同年4月にフレスノで開かれる「レーズンの日」のイベント参加を呼びかけました。



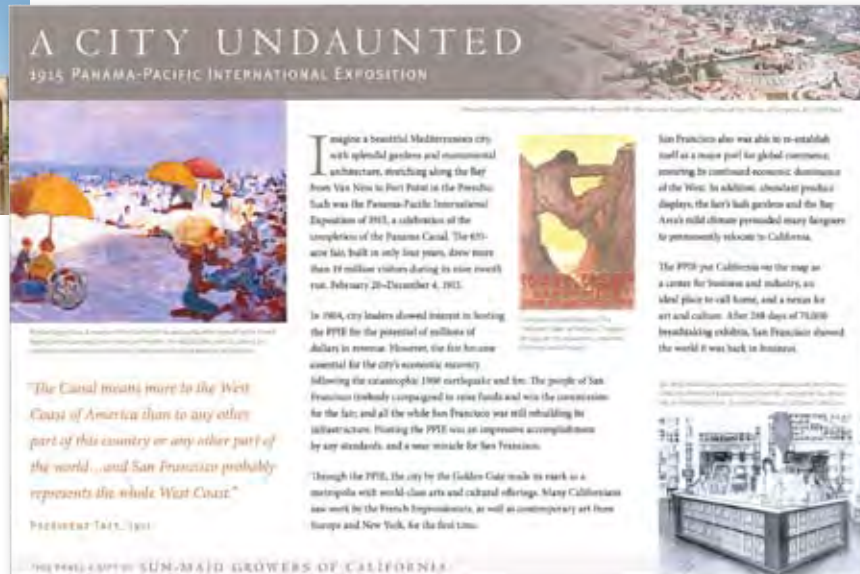
パレス・オブ・ファイン・アーツ

パレス・オブ・ファイン・アーツは、1915年の万博から残っている唯一の建物です。サンメイドの支援によりパレス・オブ・ファイン・アーツ2010年キャンペーンが行われ、建物が改修され将来の世代のために保存されました。1915年の万博のサンメイド出展については、パレスを取り巻く6枚の新しいインタブレイティブ・パネルで説明されています。



サンメイドのサンプル

万博には世界中から多くの観客が訪れましたが、その多くは初めてレーズンを試食する人たちでした。観客はレーズンに舌鼓を打ちながら、「ステレオモトグラフ」と呼ばれる装置を覗き込み、サンワキーンパレーでレーズンを栽培・生産する様子を約7.5センチ四方の3D画像で見ることができました。



ブランドの構築

1912年以降、広告はサンメイドの成功の鍵となってきました。新聞や雑誌に掲載された広告により、サンメイドは短期間で全国ブランドに成長しました。



レーズン列車
最初の大規模な広告キャンペーンでは、1250トンのレーズンを積載し、「カリフォルニア栽培農家6000軒が育てたレーズン」という看板を掲げた列車がシカゴに向かいました。3200キロを走破する間、人々はレーズンとカリフォルニアに高い関心を寄せました。



ベア・ブランド
サンメイドになる以前、California Associated Raisin Companyの販売するレーズンは「ベア」というブランド商標で箱詰めされていました。カリフォルニア州の旗に使われている熊にちなんだものです。「サンメイド」というブランド名は、1914年に広告担当部長E・A・バーグにより発案されました。天日干しのレーズン生産プロセスに着想を得て、「日光の中で作られた (made in the sun)」というスローガンを「サンメイド」に変えました。



アニタ・キング
有名女優兼スタントカードライバーのアニタ・キングは、女性として初めて米国を車で単独横断しました。彼女は1915年、サンメイドの広告キャンペーンに参加するため、フレスノを訪れました。アニタはサンメイドの赤い日よけ帽をかぶって写真撮影を行い、レーズンパイを試食し、消防車に乗って町中を回りました。

レーズンの日
フレスノで1909年4月30日に、最初の「レーズンの日」パレードが行われました。このイベントは大成功し、10万人の観客を集めました。訪れた人々はコンテストやレース、パフォーマンスを楽しみました。パレードではコミュニティグループ、企業、行政区、さらに遠くはロサンゼルス郡などが山車を披露しました。それ以来、この行事は毎年開催されるようになりました。



サンメイドのブランド
1920年代初頭にはCalifornia Associated Raisin Companyのメンバーは州内のレーズン生産者の85%を占めていました。1922年には全国的に知られたブランドをより身近に感じてもらうため、団体名を「Sun-Maid Growers of California」に変えました。



レーズンのレシピ
サンメイドは全国紙に印刷広告を出して、レーズンへの関心を高めました。自然が生んだレーズンの甘みとシンプルな美味しさ、健康上の利点などが繰り返し強調されました。レーズンパンやレーズンパイのレシピが紹介されると、人々が家庭でこのレシピを使って料理するようになりました。地元のパン屋でも、レーズンを使った食品を買い求める人が増えた結果、卸売り業者から注文も増加しました。



1915年
農協組織は「サンメイド」のブランドロゴに、ロレーン・コレット（結婚後はロレーン・コレット・ピーターセン）をモデルとした絵を使い始めました。



1923年
サンメイドガールのオリジナルのイラストが初めて修正されました。肌の色をより明るくし、笑顔をより大きく、さらに太陽のデザインが変更されました。急変する1920年代に合わせ、より現代的なスタイルになりました。



1956年
1950年代半ば、トレードマークに2回目の修正が行われました。太陽を中心から外して配置することで、日差しの量が多くなり、サンメイドガールの顔に日よけ帽による影ができました。



1970年
明るいカラーと太陽の幾何学的デザインによって、ロゴがモダンになりました。この3回目の修正では、ブランド名が黄色で印刷され、より温かみのある陽気な雰囲気になりました。このサンメイドガールは21世紀も引き続き使用されています。

サンメイドの広告

サンメイドはファッションやポップカルチャー、テクノロジーと連携するなど、1930年代も引き続き広告戦略を拡張しました。広告媒体が変わっても、自然の風味と高い栄養価という、サンメイドのメッセージは変わりません。

THE LADIES' HOME JOURNAL

1883年から出版されている『The Ladies' Home Journal』は女性の視点から米国人の生活を記録したもので、家族や結婚、仕事、家庭、美容といったトピックを取り扱っていました。サンメイドはこの読者層を対象に、健康志向で甘みのあるレーズンを家庭料理に使うことを奨励しました。



SATURDAY EVENING POST

当時、最多の発行部数を誇った『Saturday Evening Post』誌は、質の高いアート、ショートストーリー、エッセー、連載小説、ジョーク、漫画、詩などを掲載し、米国で人気を博していました。1940年に掲載されたこの広告は、レーズンを使用した家庭料理を紹介し、海外に派遣された兵士たちの間で、長期保存が可能な家庭の味であるレーズンの人気について説明したものです。



ダブルデッカー

当時はバスが一般的な交通手段でした。サンメイドは1932年頃、英国ロンドンでバスを広告に利用しました。英国の1人当たりのレーズン消費量はどの国よりも多く、英国におけるレーズンの人気の高さは、世界中に広がっていきました。

子供たちの健康

自然の恵みレーズンは、子供の健康に良いとして、サンメイドは常に子供たちの健康を強調した広告を作成しました。この広告は、ヘルシーなスナックとしてレーズンを奨励しています。これに続いて、1980年代には「自然のキャンディ」マーケティングキャンペーンが展開されました。



カートン缶

1980年に登場した新パッケージでは、サンメイドレーズンの新鮮さが重視されました。このカートン缶は機密性の高いフタ付きで、レーズンのしっとりとした食感とふっくらとした質感の両方を確保することができます。また、食べやすさ・使いやすさを考えて、開口部を大きくしました。このパッケージはまたたく間に、大ヒットしました。

ダンシングレーズン

カリフォルニアレーズン諮問委員会は1986年、カリフォルニアダンシングレーズンを発売しました。イラストがお弁当箱やノート、衣服、ポスター、おもちゃ、ビデオゲームなどに使用され、同委員会は多額のライセンス使用料を手に入れました。



自然の甘み

1990年代、一連のテレビや印刷広告で、サンメイドのスポークスパーソンとして子供たちが登場しました。この広告は、最も愛されるサンメイド広告キャンペーンのひとつとなりました。



祝ヨセミテ

サンメイドは1990年、アンセル・アダムス氏が1960年に撮影した「Moon and Half Dome」と題する写真を広告に使い、ヨセミテ国立公園指定100周年を祝いました。サンメイドは、広告と販促に関連してアンセル・アダムス出版権トラストから画像の使用許可を得た初めての食品会社となりました。



スターパワー

2006年、サンメイドガールが初めてアニメーション化されました。21世紀版のサンメイドガールが印刷物やテレビ、会社のウェブサイトに登場し、新たなスローガン「Just Grapes & Sunshine®」が使われるようになりました。



ノーマン・ロックウェルとサンメイド

1920年代、有名アーティスト、ノーマン・ロックウェルが作成した一連の広告では、サンメイドは伝統的なアメリカ家庭のシンボルとして描かれています。これらの作品は『Saturday Evening Post』や『Good Housekeeping』、『Ladies' Home Journal』などの人気雑誌に掲載されました。当時、偉大な商業イラストレーターでだったロックウェルの技法は、2006年にサンメイドガールをアニメーション化する際のインスピレーションとなりました。



ノーマン・ロックウェル

ロックウェルは1894年、ニューヨークシティで生まれ、14歳でアートを学び始めました。まだ10代のときに米国ボーイスカウト雑誌『Boys' Life』のアートディレクターになりました。フリーランスのイラストレーターになってからは『Saturday Evening Post』のために322枚の表紙を描いたほか、『Life』や『Literary Digest』、『Country Gentleman』、『Look』などの雑誌にも作品を掲載しました。ロックウェルはニューイングランドの町アーリントン(バーモント州)に長年住みましたが、1943年には火事でアトリエと多くの作品を失いました。その後、マサチューセッツ州ストックブリッジに引越し、84歳で亡くなるまで住み続けました。彼のアート作品とアーカイブはある財団により保存され、これがのちにノーマン・ロックウェル美術館となります。彼が最後に使っていたアトリエ(赤い納屋のような建物)は1986年に同美術館の敷地内に移されました。1994～1995年にかけて、ロックウェル生誕100周年を記念する行事がマサチューセッツ州ストックブリッジのノーマン・ロックウェル美術館で開催されました。この期間中、サンメイドが依頼した2つの油絵の原画(「Market Day Special」と「Fruit of the Vine」)が同美術館に貸し出され、現在も收藏されています。

サンメイド創業75周年

1987年にはサンメイドの75周年を記念するため、「Market Day Special」が描かれたコレクティブプレートが作られました。



MARKET DAY SPECIAL

1927年の「Market Day Special」は35 x 33インチ(89 x 84cm)で、サンメイドのお徳用1.8キロパッケージが描かれています。



FRUIT OF THE VINE

1926年に製作された「Fruit of the Vine」(78.5x68.5cm)では、サンメイドの青いマスカットレーズンボックスが描かれています。1967年にサンメイドに送った手紙の中で、ロックウェルは絵の中の年配の婦人は、彼の最初の妻の母親だと説明しています。彼は頻繁に、家族や地域の人々を作品の題材にしました。



LITTLE REBELS CAN'T HOLD OUT

1928年に描かれた「Little Rebels Can't Hold Out」は『The Farmer's Wife』誌の印刷広告に掲載されました。彼の他の宣伝用イラスト同様、ロックウェルは製品をあえて目立たせず、世代間の交流に焦点を当てて描きました。



IN A WONDERFUL BARGAIN BAG

1927年に描かれた「In a Wonderful Bargain Bag」(76x71cm)では、サンメイドの青い「Market Day Special」バッグが描かれています。



THE MORE RAISINS THE BETTER THE PUDDING

「The More Raisins the Better the Pudding」は1920年代に描かれ、『Saturday Evening Post』誌の広告に使われました。この広告は84x119cmの大きさで、4万軒の食料品店で使われ、レーズン入りプディングの人気の高まりました。

ポップカルチャー におけるレーズン

サンメイドレーズンは長い歴史をかけて確固たる地位を築いてきただけでなく、世界中の子供や大人に愛されるブランドに成長しました。最も知名度が高く、高い評価を受けているレーズンブランドとして、サンメイドはポップカルチャーのさまざまな媒体に当然のごとく取り入れられました。

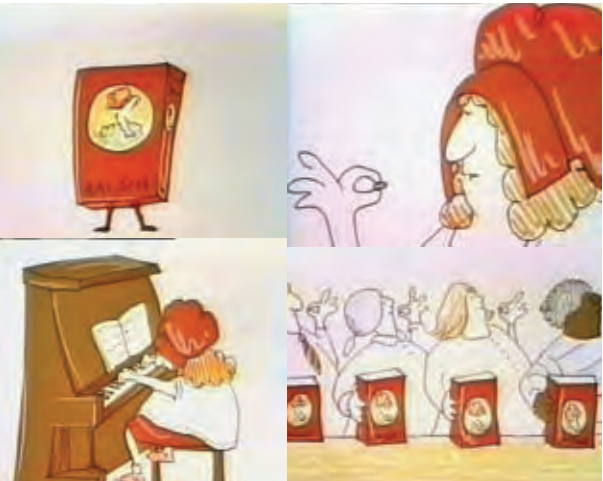
年間を通じて、サンメイド製品は、早朝や深夜を問わず色々なトークショーで取り扱われ、マスターカードの「プライスレス」のコマーシャルに最高の雪だるまを作るための必需品として登場したこともあります。

明るいカリフォルニアの太陽、サンメイドガールと赤い日よけ帽を描いた象徴的な赤いレーズンボックスは、世界中の消費者に愛されています。サンメイドの赤と黄色のレーズンボックスは、児童書からテレビ番組、雑誌、ビデオゲームにいたるまであらゆるカルチャー媒体に登場し、質の高い健康食品としてのブランドイメージの促進が図られています。



MAD レーズン
1988年秋、カリフォルニアダンシングレーズンは人気の絶頂期を迎え、ユーモア雑誌『MAD』の表紙に同誌のマスコットであるアルフレッド・E・ニューマンとともに登場しました。

セサミストリート
1987年、数々の賞を受賞している子供向け教育番組「セサミストリート」に赤い日よけ帽をかぶった女性が登場し、サンメイドのブランドを連想させるアニメーションが放映されました。「バレードのスナック」というタイトルのこのアニメーションでは、レーズンを天日干しして赤と黄色の箱に詰め、世界中の人々にも食べてもらえるように包装するというサンメイドのプロセスが説明されました。



モノポリー
2006年に発売された、特製サンメイドモノポリーゲームでは、サンメイド所蔵コレクションの中から、カラフルなアート作品や広告、歴史的な文書などが使われました。



アメリカで1番
2007年、『Reader's Digest』誌は毎年恒例の「America's Best」賞でサンメイドガールを「最も永続に愛されるロゴ」に選びました。



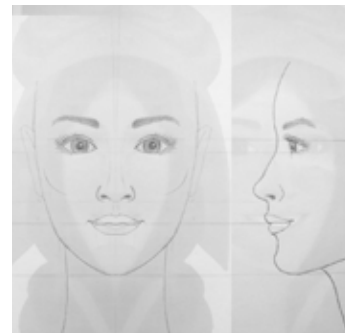
ザ・シンプソンズ
2007年に放映されたテレビアニメ「ザ・シンプソンズ」の400回目のエピソードでは、マージがスプリングフィールド小学校のバザーのためにお得意のレーズンスポンジケーキを焼くシーンがありました。「Sun-Made」レーズンボックスが空だったので、マージはスーパーに行き、棚に並んでいた最後の「Sun-Made」の箱をめぐるヘレン・ラブリジョイと一戦を交えます。



ブルース・クルーズ
2007年に発行された児童書『Healthy Snacks with Blue!』ではケーブルテレビ局ニコロデオンで人気の犬ブルーと友達のジョーが登場し、学校に持っていくヘルシーなスナックを作ります。ブルーとジョーは「ヘルシースナックの日」のために、フルーツサラダの材料のひとつとしてサンメイドレーズンを使いました。

サンメイドガールのアニメーション化

サンメイドガールは、サンメイドとお客様を結ぶ重要な役割を果たします。2006年3月、サンメイドガールの生誕90周年を記念して、マサチューセッツ州に拠点をおくアニメーション会社Synthespian Studiosの協力により、ついにアニメーション化が実現しました。「USA Today」の全面広告、サンメイドのウェブページでの登場を皮切りに、サンメイドガールはレーズンが持つ豊富な天然栄養素を強調する「Just Grapes & Sunshine®」マーケティングキャンペーンでテレビデビューを果たしました。アニメーション化されたサンメイドガールは*New York Times*、*Chicago Tribune*、*Philadelphia Inquirer*、*San Francisco Chronicle*、*Fresno Bee*などの新聞記事にも取り上げられ、全国的に注目を集めました。アニメーション化されたサンメイドガールは、レーズンに今の世代にも受け入れられやすいモダンな印象を与えることに成功しました。でも、おなじみのサンメイドのロゴはこれからも変わりません。1970年から受け継がれているこのロゴは、これからもサンメイド製品のパッケージで使用され、サンメイドガールのアニメーションキャラクターはCM、印刷広告、サンメイドのウェブサイトで活躍していきます。



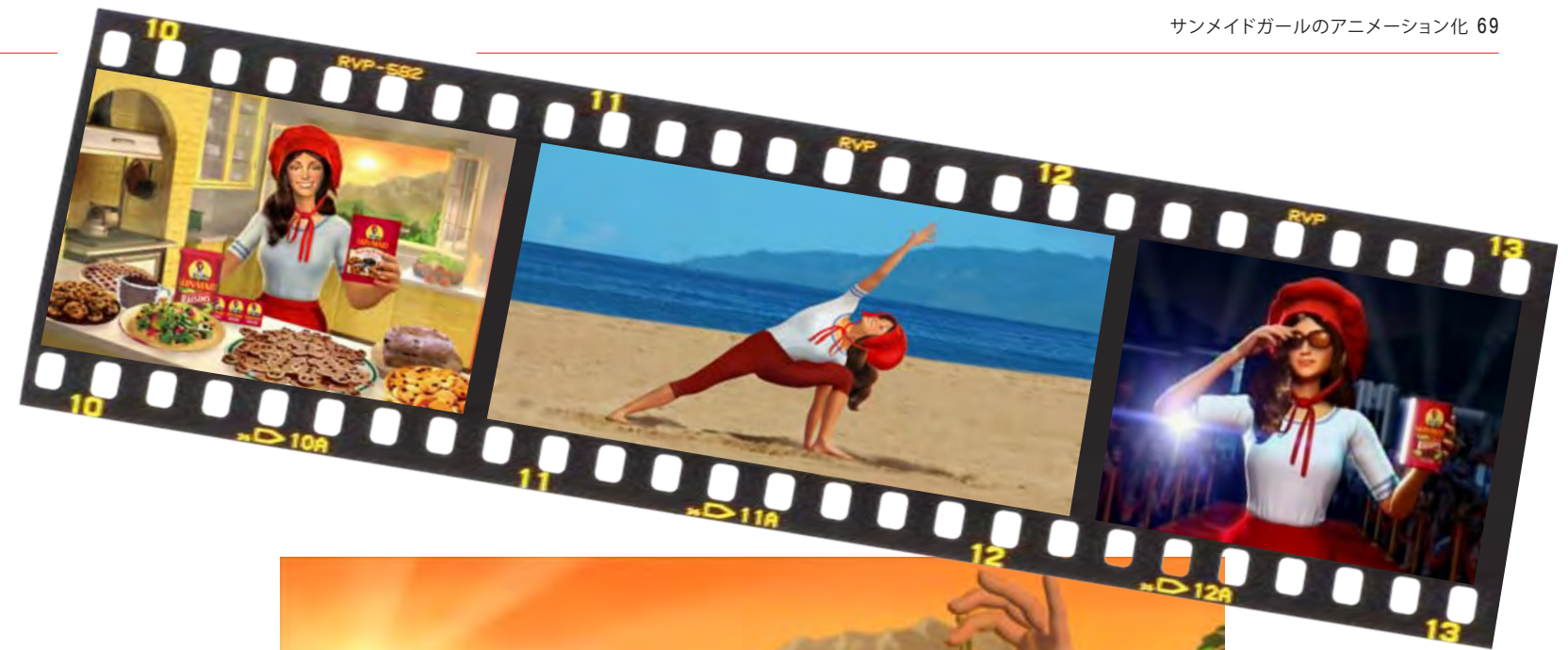
原画からアニメーションへ

サンメイドガールのパッケージイラストを忠実に再現しようとするアニメーションデザイナーたちの努力により、原画を忠実に再現した3Dキャラクターが完成しました。



スケッチからスクリーンへ

アニメーターたちはデジタル化プロセスに先立ち、まずキャラクターの正面と側面を再現する作業に取りかかりました。特徴のある赤い日よけ帽、レーズン用ブドウ農園の背景も、詳細にこだわって忠実にアニメーション化されています。



パッケージから外の世界へ
サンメイドガールはこれまで、パッケージロゴという2次元の世界だけで表現されていました。アニメーション化したことで、レーズン用ブドウ農園を自由に動き回れるだけでなく、複数の言語設定が可能になり、世界中の人々に見えていただけるようになりました。キッチンで料理をしたり、ビーチでヨガをしたりしているシーンに加え、映画の試写会にも登場します。



ブドウ農園

アニメーターたちはサンメイドガールをデジタル世界で表現するために、レーズン用ブドウとブドウ農園について詳しく研究しました。ブドウやブドウの木の写真を撮影し、ブドウ農園全体をコンピュータグラフィックスで再現することに成功しました。

サンメイドの思い出

サンメイドのウェブサイトや広告を介して、消費者の方にサンメイドの思い出を投稿していただくようお願いしたところ、多くの方から懐かしいエピソードをお寄せいただきました。これらのお話は、サンメイドのウェブサイトにも掲載されています (www.sunmaid.com)。

自作のレーズン

物心がついたときから、私の家には常にサンメイドのレーズンがありました。母はよくクッキー、パン、シリアル、プディングにレーズンを入れていましたし、私のランチにも小さなレーズンボックスが入っていました。レーズン特有の見た目と香り、そして食感を味わうたびに、当時の温かい思い出がよみがえります。かつて、レーズンは何からできているのか母



に聞いたら、お日さまで乾燥させたブドウだと教えてくれました。私は外に出て長い木の板を拾うと、それを日の当たる場所に移動させました。それから板の上にブドウの粒を1つずつ並べた思い出があります。そして、ブドウがレーズンになるのをじっと座って観察しましたが、次の日に来ても、市販のレーズンのようにはなっていませんでした。

世界が急速な変化を遂げる中、昔から変わらない、素晴らしいものを作り続けてくれたサンメイドには感謝の気持ちでいっぱいです。

Jacqueline C.

サンメイドをみんなで

サンメイドのレーズンを大好きな人と仲良く食べると、楽しさがさらに広がります!

Kyle & Caitlyn K.

サンメイドの大ファン

息子はサンメイドのレーズンが大好物です。食べ終わった後もパッケージの箱で遊んでいる息子を見て、どれほどレーズンが好きなかがよくわかりました。

Lisa C.

父との思い出

私は幼稚園の頃、ニューヨークに住んでいました。牧師であった父は時間に余裕があったため、お弁当を作ってくれたり、学校まで歩いて送ってくれたりしました。その頃はあまり裕福な暮らしではなかったため、ランチにレーズンボックスが入っているたびに興奮したものです。

私は35歳になりましたが、ある日、職場のイスの上に小さなレーズンのパッケージが置かれているのを見つけました。どうやら父がここへやって来て、置いていってくれたようです。この小さな赤い箱には、大切な人の記憶と特別な思い出がたくさん詰まっています。

Vickie E.

祖母のダークケーキ

私の祖母は1920年代の初めにイギリスからアメリカに移住しました。結婚後、祖母はカリフォルニアに移り住みました。祖母は、いつも家族代々伝えられてきたイギリス料理を作っていました。その中でもお気に入りだったのが「ダークケーキ」です。このケーキは卵を使わず、ショートニング少々と大量のレーズンで作ります。祖母はよく、これが第一次世界大戦における食糧不足の中でも作ることができた唯一のケーキだったと話していました。



毎日孫たちが遊びに来ると、パントリーから小麦粉が入った大きな容器と、たくさんのサンメイドのレーズンボックスの1つを取り出す祖母の姿を思い出します。

祖母にお願いしてこのケーキのレシピを覚えてもらったおかげで、今では孫である私たちがケーキを作ります。今でもダークケーキ用にサンメイドのレーズンを買うたびに、いつもキッチンに立ちスプーンで生地をかき回しては味見をしている愛情にあふれた祖母との楽しい思い出がよみがえります。

Cynthia R.

レーズンのご褒美

この小さな赤いレーズンボックスを見るたびに、何とも言えない感情が懐かしい思い出とともによみがえります。私は小さい頃、よく祖母の家に遊びに行きました。両親が外出する時には、姉妹3人で祖母の家に泊まることもありました。そのたびに祖母からレーズンをもらうのを楽しみにしていました。あまりにおいしかったため、歯につまることも、虫歯の原因になることも気にしませんでした。母にも

同じレーズンを買ってもらうよう頼んだことを覚えています。ランチにもよくレーズンが入っていました。レーズンはランチの一番の楽しみでした! 今でもレーズンを買っては、1人で1箱分を食べてしまうことがよくありますが、鉄分が必要な私にはぴったりです。

Denise I.

レーズンとテレビ

小さい頃、レーズンはお決まりのおやつで、アニメを見ながらつまむのに最高の一品でした。今では見る番組は変わりましたが、この習慣は変わっていません。

Molly W.



レーズンボックスの笛

子供の頃、ランチに入っていたサンメイドのレーズンを一気に食べ終え、レーズンボックスを笛のように吹くのがお決まりの遊びでした。先生たちは嫌がっていましたが、この遊びは他の子供たちにも広まり、ついには毎日ランチの時間になるとレーズンボックスを使った即興コンサートが開かれるようになりました。今でも、職場のランチでサンメイドのレーズンを食べては、毎日楽しく過ごしていた頃を思い出し、レーズンボックスを笛のように吹いてしまうことがあります。この世には、いつまでも変わらないものが確かに存在するのでしょうか。

Tony W.

母が作る家族伝統のレーズンクッキー

1956年、暖房もなく冷たい風が吹き込むスクールバスに激しく揺られながら、帰宅中に私が楽しみにしていたのは、放課後のおやつでした。中でも好きだったのが、母が作ってくれた柔らかいレーズンクッキーとチョコレート



ミルクでした。これは父の好物でもあり、定番のおやつでした。結婚してからは、母のクッキーは私の夫の好物となり、6年後に男の子を授かってからは、息子の好物にもなりました。時は過ぎ、レーズンクッキーは3人の孫の好物となり、よく一緒にクッキーを作ります。今では、母から教わったソフトレーズンクッキーのレシピは、ひ孫たちの代にも伝えられています。5世代に愛される母のクッキーのレシピはどこからきたのか? 今では知るすべもありませんが、サンメイドのレシピだったとしても不思議ではありません。

Mary Jane L.

平和な未来への願い

私の話は思い出というよりは、平和な未来への願いです。サンメイドのミニスナックは、海外に送るプレゼントとして最適です。夫には、現在アフガニスタンに駐留している甥がいます。時には2000メートルを超える極寒の山岳部で過ごすこともあるそうです。私たちはキャンプを数日離れるような任務でも気軽に食べられる、おやつ入り「ケアボックス」を送りました。現地の気候上、極度の高温や低温にも耐えられるものが必要で、レーズンはぴったりのプレゼントです。

厳しい任務の中で、彼に安らかなひと時を過ごしてもらうための「ケアボックス」を送ることができたのも、サンメイドのレーズンのおかげです。

Gloria

キャンディじゃない?

祖母の家に行くたびに、パントリーの中からおやつを選ばせてもらっていました。そして、ドアを開けてすぐに手に取っていたのは、あの赤い小さな箱でした。当時、私はいつもキャンディをくれる祖母をととても優しい人だと思っていました。祖母は、そんな私をただ微笑みながら見ていました。今でもこの赤い箱を買うたびに、祖母が私だけにくれた特別なおやつのことを思い出します。

Donna M.

いつもパントリーに

私は大家族で育ち、キッチンテーブルを9人の兄弟姉妹で囲んで食事をしていました。母は当然のことながら、なるべく体に良い食べ物を慎重に選んでくれました。時代は世界恐慌のまっただ中でしたが、食卓に出るシリアル、パイ、ライスプディング、ケーキ、クッキーの中には、いつもサンメイドのレーズンが入っていました。時には兄弟たちが「ママ、またレーズン? レーズンがなければ何も料理ができないの?」と冗談を言うこともありましたが、私たちはどの食べ物も大好きでした。

84歳になった今でも、昔の習慣はなかなか変えることができず、家のいたるところにレーズンがあります。もちろん、サンメイドのレーズンでなければ、こうはなっていなかったでしょう。

Mary G.

孫娘の思い出

サンメイドのレーズンは、私の孫娘、マディソンのお気に入りのおやつでした。週末になると、おじいちゃんと一緒にレーズンをかじりながら何時間もおしゃべりをしていたものです。

Debra L.



楽しい

夢を見ながら

この写真は、まさに「百聞は一見にしかず」です。

Brooke K.

祖母のお気に入りのおやつ

母方の祖母のお気に入りのおやつは、昔ながらのサンメイドのレーズンでした。伯父がカルフォルニアから訪れるたびに、祖母のために箱入りレーズンを大量に持ってきたものです。私はカリフォルニアで学生をしていましたが、故郷に帰るときは、伯父がしたように、祖母へのお土産はいつもサンメイドのレーズンでした。

祖母の葬儀の際には、お供え物としてサンメイドのレーズンを供えました。私たちの習慣では、愛する人が生前大切にしていたものや、お気に入りの品をあの世でも使えるよう燃やして送り出します。

私たちが小さい頃から、祖母はいつもサンメイドのレーズンを食べていました。これを見るたびに、祖母のことを思い出します。

M. Chui

父の好物のパイ

私の家族はあまり甘いものやデザートは口にしませんでした。ただ、小さな箱入りのサンメイドのレーズンは、ただ美味しいという理由で食べていました。栄養価のことをとやかく言われていたら、もしかしたら食べていなかったかもしれません。近所の子供たちのお気に入りのおやつもレーズンでした。母は休日に、定番のピーカンパイやパンプキンパイなどを作っていました。父にはよくレーズンパイを作っていたのを覚えています。レーズンパイは父の大好物でした。

今でも、レーズンを食べたり料理に使ったりするたびに、父のことを思い出します。そして、自分自身でレーズンパイを作ってみようという気持ちになります。もちろん、母が作ってくれるのが一番ですが、我が家は今もレーズンが大好きです。そんなレーズンを作ってくれたサンメイドには感謝の気持ちでいっぱいです。

Mary Ann W.



に果樹園から摘みたてのリンゴとレモンのすりおろしを加え、たっぷりの愛情を込めて料理を作ってくれました。最後に、スパイスとして糖蜜を混ぜて香りが出れば、仕込みは完了です。これを熱した瓶に詰めて4週間ほど待てば、感謝祭で振る舞われるスターパイができあがります。祖母は何世代にもわたってこの馳走を皆と分け合うことを願っていました。私たちも祖母にならい、この伝統を続けようと思います。サンメイドのレーズンは最高です！

Paula N.

思い出のレーズン

私は小さい頃、裏庭でPennantia baylisianaという世界で最も珍しいと言われる木の下で、サンメイドのレーズンを食べながらハーディーボーイズの本を読んでいたことを覚えています。サンメイドのレーズンを見ると、ガム一箱が5セントで売られていた素朴な時代を思い出します。

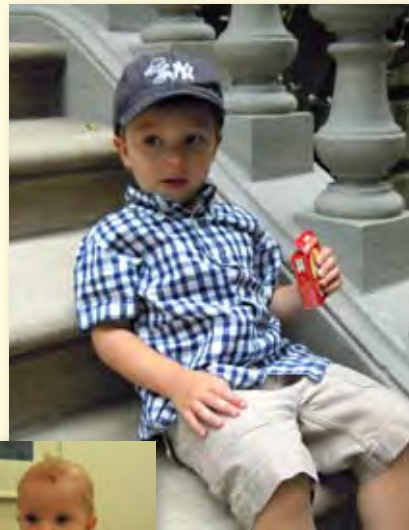
Sam S.



サボった日のクッキー

母は毎年1回くらい、「病気」を理由に学校を休ませてくれました。これは、1日を母と一緒に過ごすための暗黙の了解でした。家の中は、友人も父親も兄弟もいない、私と母2人だけの空間でした。その日は必ず、キッチンでオートミールクッキーを焼きました。材料を計って生地に加え、クッキーを天板に敷くのが私の担当でした。そして、材料を混ぜ、クルミを砕き、クッキーを焼くのは母の担当でした。サンメイドのレーズンは、生地を混ぜる際にすりつぶされないよう、必ず最後にボールに加えました。クッキーが焼ける香ばしい香り、ブラウンシュガー、バニラ、そしてレーズンの香りは、今でもよく覚えています。母は他界しましたが、母との思い出は私の心の中で永遠に生き続けることでしょう。

Tom B.



ニューヨーク ブルックリンに注いだカルフォルニアの日差し

ここブルックリンにもカルフォルニアの恵みが届きました。息子の好物は、小さな娘の好物にもなりました。

Jamison & Eleanor K.

レーズンが教えてくれたこと

私は小学校4年生のとき、レーズンについての自由研究を行いました。1970年当時、現在のようにコンピュータがなかったため、学校の図書館などあらゆる手段を使って、レーズンについて調べ上げました。学校でレーズンの自由研究を発表したあと、両親が買ってくれた小さなレーズンボックスをクラス全員で分けて食べま

した。発表しながらレーズンを食べてもらうという演出が功を奏したのか、その年で最高の自由研究だったと褒められました。この懐かしい思い出も、サンメイドのレーズンのおかげです。

自由研究の発表以来、学校のおやつにいつもサンメイドのレーズンを持って行った記憶があります。私の家では、クッキーやスナック菓子はあまり出されなかったで、サンメイドのレーズンはとても手軽で美味しいおやつでした。両親も私の自由研究の結果を喜んでくれました。それ以来、我が家のおやつはレーズンが十八番になりました。

Donna S.

おやつとキス

小さい頃、いつもレーズンが入った、赤くて小さな箱を持ち歩いてたことを覚えてます。子供が持ち歩くのに、ぴったりの大きさで

した。今では、いつでも息子にあげられるよう、常にバッグに入れてます。この写真を撮った日、息子のコールはお友達のキャロラインと一緒にレーズンを食べ、可愛らしいキスをプレゼントしてもらいました。

Kate C.

